

鎌倉文化—鎌倉仏教の展開 (2)

法然は浄土教を深化させた。また、栄西は末法思想を否定、禅の受容によって日本仏教を革新しようと試みた。鎌倉時代中期、これらの教えが武士・庶民に浸透して、宗派ごとに教団が形成された。

仏教が武士・庶民に浸透すると、まだ見ぬ極楽浄土よりも、先だって現世でいかに救われるかが目下の関心事となった。一遍は現世での弱者の救済を説き踊念仏を広め、また、日蓮は社会の安定を法華経の教えに求めた。南都の仏教もこれらと争うように、教義の革新、庶民への接近（慈善事業）などに努めた。

○現世への対応

人々は今を生きる。この現世でいかに仏の救いを得るかが最大の関心となった。

●日蓮 (1222~1282年)

<教え>

(1) _____ は、『(2) _____』のみが釈迦の教えを正しく伝え、末法の世界でも効力をもつ経典と考えた。

①(3) _____ と呼ぶ「南無妙法蓮華経」の7字を唱える。

②人々は生きながら（現世で）成仏できる。

(1) は、(2) を ^{ないがし}蔑ろにする禅・念仏など他宗攻撃を激しくおこなった。→邪法である禅・念仏を止めなければ、いつか外敵侵入と内乱に遭うと予言し、『立正安国論』を5代執権北条時頼に提出した。

⇒時頼は(1)を流罪とし、その後蒙古襲来には遭ったが侵入されなかった。

◇(1)は幕府の激しい弾圧を何度もうけたが、教えは関東の武士や商人に浸透



<関連事項>

宗派…(4) _____ (_____)

著書…『(5) _____』

中心寺院…^{くおんじ}久遠寺 (山梨)



図1 日蓮

●一遍 (1239~1289年)

<教え>

①信不信・浄不浄の差別なく、念仏を唱えれば往生できる。

②往生できる喜びが、踊りとして自然に現れる (6) _____)。

◇(6) …踊りは農耕儀礼・庶民の娯楽と共通点が多く、親しみやすい側面あり

(7) _____ は、民衆に(6)で布教しながら諸国を遍歴した。

⇒遍歴の様子は、『(8) _____』に描かれる。



図2 踊念仏

<関連事項>

宗派…(9) _____

語録…『一遍上人語録』(一遍は死の直前に著書を焼却)

中心寺院…^{しょうじょうこうじ}清浄光寺 (神奈川)



図3 一遍

○ 既成教団の動向

● 南都の仏教

南都六宗は仏教の革新と、民衆への接近を目指した。

(10) _____ 宗： 貞慶 (解脱)

(11) _____ 宗： (12) _____ (高弁)

律宗： (13) _____ (思円)

律宗： (14) _____ (良観)

◇(12) …法然を批判し、『摧邪輪』で彼の説に反論

◇(13) …奈良⁽¹⁵⁾ _____ 寺で律宗を復活させて戒律を復興

◇(14) …ハンセン病者の救済施設北山十八間戸^{きたやまじゅうはちげんどう}を設置



図4 北山十八間戸 (所在地：奈良)

○ 神の信仰とその他

● 神の信仰—教義の必要性

仏教受容の一方、神の信仰 (神祇信仰) が受け継がれていた。

→当初、理論・体系などの教義は必要なく、布教も必要なかった。

⇒そして、重要な神社は朝廷の経済的な保護をうけた。



律令制が崩壊して朝廷の権威が失墜すると、

神社は神々の威光・由来を宣伝し、寄進や参詣人を集めなければならなくなった。

→その過程で「神道 (神祇信仰+教義)」が生み出された。

⇒動きはやや遅れて伊勢神宮にも起こり、伊勢外宮の神官⁽¹⁶⁾ _____ は、
(17) _____ を生み出した。

◇(16) …『⁽¹⁸⁾ _____』を著し、本地垂迹説を否定

⇒神本仏迹説 (反本地垂迹説) を唱えて、

神 (本地) が仏という仮の姿 (垂迹) でも現れたのだと説明・納得

● その他

①⁽¹⁹⁾ _____ (日本古来の山岳信仰と密教の融合) が独自の立場を確立

②朱熹 (朱子) に構築された朱子学 (儒学一派) が日本に伝来

⇒特に朱子学が強調する⁽²⁰⁾ _____ は、後醍醐天皇に強く影響

◇(20) …君臣の間には不変の秩序があり、これは守られるべきとする考え

⇒後醍醐は、天皇=「主」、幕府=「従」があるべき姿とし、討幕を計画



図5 修験者

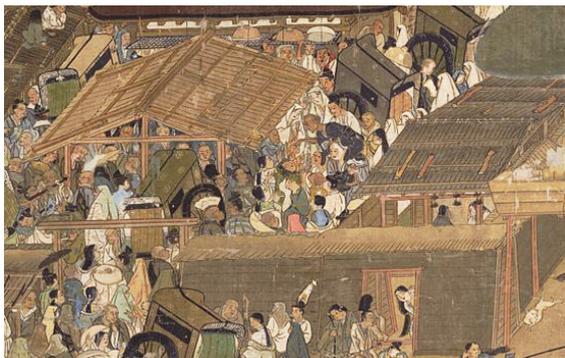


図6 『一遍上人絵伝』

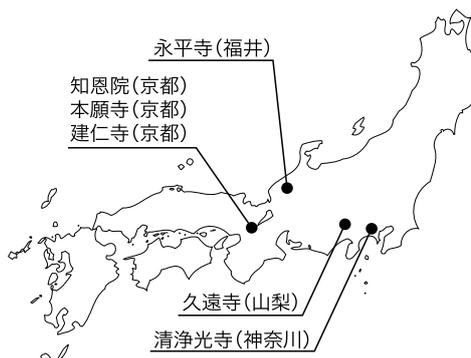


図7 鎌倉仏教の中心寺院